



2014.10.16

No.48

# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆  
連絡先 090-7118-2312

## 「標的の村」上映と監督の講演会

# 人権無視の沖縄に向き合う

9月29日、芦屋「九条の会」は「標的の村」の2回の上映と三上監督の講演を上宮川文化センターで開催し、300人を超える方の参加で会場は超満員。立ち見の人も多数出る程の大盛況でした。

## 全国ニュースから黙殺されたドキュメント

映画は、アメリカ軍普天間基地が封鎖された日を映し出す。日本にあるアメリカ軍基地の74%が集中する沖縄。オスプレイのヘリパッド建設に反対し道路に座り込んだ東村・高江の住民を、国が「通行妨害」で訴えた。舐めるように低空飛行を繰り返すアメリカ軍のヘリ。自分たちは「標的」なのかと憤る住民たち。

10万人が結集した「オスプレイ配備に反対する県民大会」直後、政府は電話一本で県に「オスプレイ配備」を通達。「沖縄をいつまでバカにするのか！」ついに、県民の怒りが爆発した。強硬配備前夜の2012年9月29日、台風の中を人々は普天間基地ゲート前に身を投げ出し、車を並べ22時間にわたってこれを完全封鎖。おじいやおばあ、母親、労働者たちが座り込む、泣きながら島唄を歌う女性も。強制排除に乗り出した警官との激しい衝突。そんな日本人同士の争いを笑いながら見下ろすアメリカ兵たち。復帰40年経っても変わらない沖縄の現実・・・。

## 三上監督、「沖縄のいま」を語る

三上監督は、「標的の村」が各地300箇所以上で自主上映が行われるとは思わなかったと話を始められました。

「標的の村」の反響は、安倍政権が昨年12月6日に特定秘密保護法を成立させたことが大きなきっかけになり、今年7月1日に集団的自衛権行使容認を閣議決定したことで、坂道を転げ落ちるような政府の右傾化を危惧する人が増えたからではと思う。

琉球新報の調査で、8割の県民が辺野古へのアメリカ軍新基地建設に反対している。漁船やカヌーに乗って反対行動をする住民を排除するために、浮標（ブイ）と浮具（フロート）を設置する作業が8月14日に着手された。4時半に飛び起きて大浦湾に行ったところ、海一面を船が埋め尽くしていた。翌日には、反対派のカヌー20隻とボート4隻を排除するために、海保・防衛省・賛成派の漁師の船など86隻以上で埋め尽くした。この出来事は県内トップニュースだったが、全国のニュースでは全く報道されなかった。

